

稲作情報



NO. 1

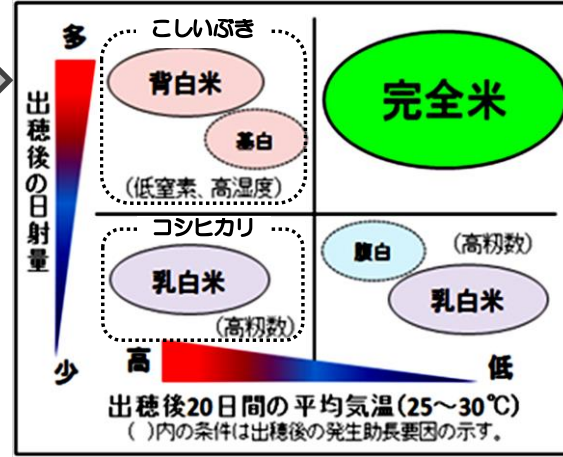
越後さんとう農業協同組合
電話番号(0258)41-2887

いよいよ29年産米の作付けが始まります！

平成29年 3月21日

4年連続で「1等級比率90%以上」を確保しよう！

H28年産米 格落要因	コシヒカリ	心白粒:35.7%
	こしいぶき	背白粒:28.7%



平成28年産米は、「中干し開始の程度」が不十分なほ場が多く、穂数・籾数過剰となり、コシヒカリを中心に、出穂期から登熟期にかけての高温・フェーンにより「心白粒」の多発生を助長する結果となりました。

心白粒の発生抑制のためには、『健苗育成による早期良質茎の確保』→『適期中干し』による生育調節(適正生育量の確保)が重要です！

1. 育苗準備

品質・収量の安定のためには、適正生育量の早期確保が欠かせません。
“健苗育成”によるスタートダッシュが肝心です！

(1) 育苗ハウスの準備

- ◇ いもち病やばか苗病の感染源となる稲わらや籾殻は、育苗ハウス内・近辺から除去しましょう。また、育苗床土へのくん炭混和や育苗時の敷材としての使用は避けましょう。
- ◇ ビニールを早めに張ることでハウス内を乾かすとともに、ハウス内を暖めておきましょう。

(2) 育苗資材の準備

育苗病害発生防止のため、育苗資材の消毒を徹底するとともに、被覆資材の特性を理解した上で、的確な育苗管理をしよう！

① 被覆資材

時期	上資材	下資材	保温性・保湿性	注意点
出芽期	シルバーポルトウ#80	ミラシート	高	晴天時は温度が上がりやすい(※ミラシートの一重は特に注意)
		ラブシート		
緑化期	シルバーポリを剥ぐ(低温時は二重被覆)	ミラシート	低	乾きやすい
		ラブシート		

- ※ “太陽シート”を利用することにより、出芽期から緑化期の換気作業を省くことができます。
- ※ 外気の影響を受けやすく苗の成長が遅れている所には“サイドほっとネット”を活用して下さい。
- ※ 被覆資材の特徴を理解した上でハウス管理を行って下さい。劣化による保温性・保湿性の低下はヤケ苗、発芽・生育不揃いの発生を助長するので、定期的に更新して下さい。

② 育苗資材の消毒

薬剤名	散布時期	留意事項
イチバン 湿熱消毒	“土つめ前” (育苗箱、出芽室、被覆資材等の消毒)	1 作業場などは清潔にしてから作業する。
		2 イチバンの散布は資材が十分に濡れる程度とし、残液処理は種子消毒剤残液処理方法にしたがう。
		3 湿熱消毒は蒸気出芽施設を利用し、60℃1時間以上の処理とする。

(3) 野ネズミ対策

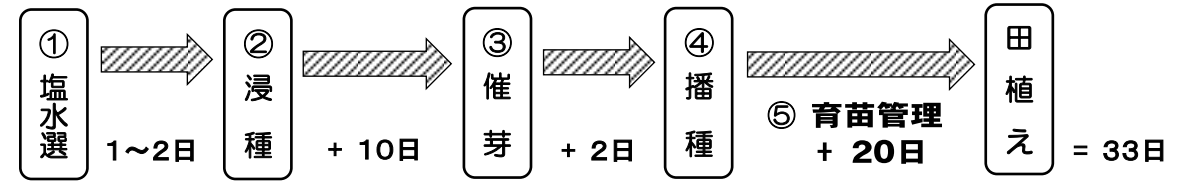
昨年、野ネズミ被害にあったハウスでは、忌避剤・殺そ剤による防除を徹底しましょう。畑や河川周辺のハウスは、特に注意が必要です。



2. 播種計画

軟弱徒長・老化苗防止のため、“各品種別に適正な作業計画を作成し、田植えに合わせた適期播種(育苗日数20日程度)、適正播種量、的確な温度管理による健苗育成”を徹底する。

(例) 4月2日 4月3日 4月13日 **4月15日** 5月5日



田植え予定日に合わせて作業計画を立てましょう！

無加温育苗の場合

田植え 月 日

【品種別田植え計画の策定】

育苗期間 20日

播種 月 日

◇ 適期田植えにあわせて適期播種、適正な播種量の徹底による健苗育成に努めて下さい。

60株植え(18箱/10a使用)の場合では、140g×18箱=種籾2.52kg/10a必要です！

【播種量目安】
コシヒカリ:乾籾140g/箱
(催芽籾約175g/箱)
育苗期間:20日(加温18日)

酒米等大粒品種の場合は150g/箱播きで！

催芽 月 日 期間:2日

◇ 催芽温度が30℃を超えると、細菌性病害が発生しやすくなるため、**催芽温度は28~30℃**を徹底し、**日数は1~2日**を目安として下さい。

◇ 「コシヒカリ」「五百万石」などの発芽しにくい品種は、**催芽不足にならないように注意し、必ず発芽状態を確認してから催芽を終了**して下さい。

◇ JAから供給される種子は温湯消毒済ですが、薬剤防除に比べ褐条病等に対する防除効果が劣ります。**タフブロックによる消毒処理を行って下さい。**

使用区分	使用資材名	使用基準	備考
種子消毒	(温湯消毒)	-	60℃の温湯で10分、15℃以下の冷水で6分冷却処理
	タフブロック	200倍液に24時間浸種	いもち病・ばか苗病・苗立枯病ほか・催芽時処理

タフブロックによる種子消毒は、催芽前処理も可能ですが、催芽時に比べると効果が劣ることがあるため、**催芽時に使用して下さい！**

浸種 月 日 期間:10日

◇ 発芽揃いを良くするため、**浸種水温は10~15℃**とし、**十分な水量(種子容量の2倍程度)**で**積算温度100℃**を目安に行って下さい。

特に、**浸種開始時の低水温(10℃未満)**は、**発芽揃いを悪くする**ので避けて下さい！

ポイント

塩水選 月 日 期間:1~2日

◇ より充実した籾を選別するために、**塩水選**を行って下さい。

◇ 溶液の中に籾を入れる際は、籾についた気泡を落とすため、棒などでよく攪拌して下さい。

区分	比重	水100g当たりの食塩の量
うるち種	1.13	1.9kg
もち種	1.08	1.1kg

注) 溶液の比重は比重計で確認する。

※ 塩水選後は“水洗い”を行う。

～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～

次回稲作情報: 3月下旬「健苗育成のポイント(適期播種・ハウス管理)、作土深、基肥施肥」(予定)

新潟県「特別栽培農産物（米）認証基準」とJA越後さんとう「肥料・農薬 使用基準」

☆JA越後さんとう管内で生産される米穀は、使用する節減対象農薬・化学肥料（窒素成分）について従来（慣行）の栽培基準よりも「5割削減した栽培」に取り組みます。

《新潟県における「地域慣行栽培基準」と「特別栽培農産物（米）県認証基準」》

地域区分	品種 (適用品種)	節減対象農薬使用回数 (成分回数)		化学肥料使用量 (窒素成分 kg/10a 以下)	
		慣行栽培基準	県認証基準	慣行栽培基準	県認証基準
長岡地域	一般（下記以外の品種）	18回	9回以下	6kg	3kg以下
	早生（わたぼうし）	18回	9回以下	8kg	4kg以下

《JA使用肥料の基準》 → 「化学肥料使用量（窒素成分）3kg（わたぼうし4kg）/10a」の範囲内で栽培します。

使用区分	品目名	使用量の目安	化学合成由来窒素成分 kg/10a	成分（%）				摘要	
				窒素	うち有機	リン酸	加里		
育苗	* 稚苗苗代配合	30g/箱	0.024	4		6	5	20箱/10a	
	ホーネンス1号培土	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a	
	ホーネンス培土1号Si	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a Si2.5	
	くみあい液肥2号	10g/箱	0.020	10		4	8	20箱/10a	
	尿素46%	2g/箱	0.019	46				20箱/10a	
	べんとう肥	20g/箱	0.032	8		8	8	20箱/10a	
基肥	* ニューほたる有機基肥オール10	30kg	1.470	10	5.10	10	10		
	有機50スーパー元肥2号	40kg	2.360	12	6.10	7	6		
	有機50早生スーパー元肥2号	40kg	2.360	12	6.10	7	6		
	特裁米専用有機ペースト855	40kg	1.600	8	4.00	5	5		
	有機50ニューフレーバー10	35kg	1.750	10	5.00	4	3		
穂肥	* ほたる有機穂肥	25kg	1.250	10	5.00	4	6		
	さんとう穂肥有機	20kg	2.460	14	1.70	1	14		
	味好2号	20kg	-	7	7.00	2	7		
有機質肥料	ワールドエースペレット	30kg	-	4	4.00	5	2		
	醗酵ケイフン（ナカショク）	30kg	-	3.6	3.60	4.2	3.3		
	鶏ちゃんパワー	30kg	-	4	4.00	3	2		
	イセグリーン	60kg	-	3.05	3.05	4.56	3.08	石灰19	
	ペレ炭	20~40kg	-	1.3	1.30	1.0	1.8	Si 26	
	その他の肥料 土づくりまたは追肥	シリカリユウ17	60kg	-					Si 17
		スーパーシリカプレミアム	20kg	-					Si 27
		PK08	20kg	-			20	18	
		苦土重焼燐	20kg	-			35		
		けい酸加里プレミア34	20kg	-				20	Si 34
塩化加里60		7kg	-				60		
マグコープ		20kg	-			17			
ウォーターシリカ	15kg	-					Si 17		
【例】	* 印を標準使用した場合の化学由来窒素		2.744						

※ 上記の使用基準を参考に、使用する資材のトータル化学合成由来窒素成分が県認証基準（コシヒカリ：3kg）以下となるよう施肥設計を行って下さい。

《JA使用農薬の基準》 → 「節減対象農薬使用回数（成分回数）：以下の統一農薬9成分」の範囲内で栽培します。

◆【わたぼうし以外の品種共通使用基準】となります。

使用区分	資材名	用途	使用成分数	摘要
種子消毒	タフブロック	殺菌	—	他の種子消毒殺菌剤との併用不可
育苗	カスミン（粒剤・液剤）	殺菌	—	
育苗箱処理	パディート（箱粒剤） ※1	殺虫	1	床土混和可能
本田除草剤	初期剤	メテオ（1キロ粒剤・フロアブル）	1	一発処理剤との体系処理
	一発処理剤	ウィナー（1キロ粒剤51・Lフロアブル・Lジャンボ）	3	粒剤・フロアブル田植同時可能
	中・後期剤	クリンチャー（1キロ粒剤・EW・ジャンボ） ※2	1	ノビエが発生した場合に使用
本田防除	中・後期剤	バサグラン（粒剤・液剤） ※2	1	雑草が発生した場合に使用
	ルーチン（粒剤） ※1	殺菌	1	いもち病予防対応
本田防除	スタークル（粒剤・液剤10・豆つぶ）	殺虫	1	共同防除（カメムシ等）
			9	

本田防除 (緊急防除)	カスミン（液剤）	殺菌	—	いもち病（緊急防除）
	バリダシン（液剤5・粉剤DL）	殺菌	—	紋枯病（緊急防除）
	Zボルドー（粉剤DL）	殺菌	—	稲墨黒穂・稲こうじ（緊急防除）

※1 ツインパディート箱粒剤でも可（床土混和可）です。ただし、ルーチン剤との重複使用は不可となります。

※2 クリンチャーバスME液剤でも可です。ただし、単剤との重複使用は不可となります。

※ 上記以外の品目を使用した場合は、一般米（JA米対象から外れる）の取り扱いとなります。

◆ 契約栽培わたぼうしの使用農薬基準

使用区分	資材名	用途	使用成分数	摘要
種子消毒	タフブロック	殺菌	—	他の種子消毒殺菌剤との併用不可
育苗	カスミン（粒剤・液剤）	殺菌	—	
育苗箱処理	パディート（箱粒剤） ※1	殺虫	1	床土混和可能
本田除草剤	初期剤	メテオ（1キロ粒剤・フロアブル）	1	一発処理剤との体系処理
	一発処理剤	ウィナー（1キロ粒剤51・Lフロアブル・Lジャンボ）	3	粒剤・フロアブル田植同時可能
	中・後期剤	スヶダチ A ^{エース} （1キロ粒剤） *スヶダチも可	1	雑草が発生した場合に使用
本田防除	ルーチン（粒剤） ※1	殺菌	1（必須）	いもち病予防対応
	オリブライト（粒剤・豆つぶ） ※2	殺菌	1（必須）	墨黒穂病・紋枯病・いもち病防除
	スタークル（粒剤・液剤10・豆つぶ） ※2	殺虫	1	共同防除（カメムシ等）
			9	

本田防除 (緊急防除)	カスミン（液剤）	殺菌	—	いもち病（緊急防除）
	バリダシン（液剤5・粉剤DL）	殺菌	—	紋枯病（緊急防除）
	Zボルドー（粉剤DL）	殺菌	—	稲墨黒穂・稲こうじ（緊急防除）

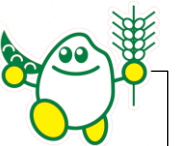
※1 ツインパディート箱粒剤でも可（床土混和可）です。ただし、ルーチンとの重複使用は不可となります。

※2 イモチエーススタークル粒剤でも可です。

※ 上記以外の品目を使用した場合は、一般米（JA米対象から外れる）の取り扱いとなります。

平成29年産米使用基準の追加・変更点について

作付け前にもう一度、「H29 肥料・農薬使用基準」の確認をお願いします！



① 育苗（追加品目）

- ホーネンス培土1号Si
 - ・ケイ酸が入っているため、既存のホーネンス培土1号よりも根張り・マット形成が良好になります。
 - 苗質が良くなる（健苗育成）

② 本田防除剤（変更品目）

- Zボルドー粉剤DL
 - ・撒粉ボルドー粉剤DLが販売中止のため変更となります。使用方法や防除効果については同等です。

* わたぼうし本田防除剤（品目変更）

- オリブライト（粒剤・豆つぶ剤）
 - ・イモチエース粒剤が販売中止となるため、省力で同等の効果が期待できるオリブライト剤へ変更となります。